



作文1部

のう りん すい さん だい じん しょう
農林水産大臣賞

心こころにもしみた思い出おもひでの味あじ

新潟県 上越教育大学附属小学校三年
にい が た けん じょう えつ きょう いく だいがく ぞく

池田 明日翔
いけ だ あす か

夏休みのお昼ごはんは、あつあつのごはんの上に、
ばあばがつけたきゅうりを乗せて食べるのがてい番
のメニューでした。でも、今年は食べられませんで
した。

夏休み、「元気になって帰ってくる」と言ってみよ
ういんに行ったらばあばと、とつぜんのおわかれをし
ました。じいじの畑には、ばあばがつけるはずだったき
ゅうりがぶら下がったままでした。

「よかったら、きゅうりとつて行って。ばあばがもう
死んじゃったから使わねえんだ。」

目をまっ赤にしながら話すじいじが、とても弱そうに
見えました。

じいじの畑からとってきたきゅうりにミソをつけな
がら食べていたら、お母さんがばあばのきゅうりを出

してくれました。私がおどろいた顔をしていたら、
「春にもらったのをれいとうしてたんだ。」

と教えてくれました。きゅうりのしるがしみた白いご
はんを大きくほおばって、一切れのきゅうりをちびち
び食べていたら、まだばあばがいるような気がして心
が温かくなりました。ばあばを思い出していたら、さ
みしそうなじいじの顔も思い出しました。

私は、ばあばの味でじいじに元気を出してもらおう
と思って、「ばあばおにぎり」を作りました。かた手
に乗せたごはんの真ん中にくぼみを作ってきゅうりを
乗せて、まわりのごはんでおおってやさしくにぎる。
自分用のおにぎりも作って、じいじのところに持って
行っていっしょに食べました。

「おいしいよ。ばあばの味だ。ありがとう。」

じいじの目から大つぶのなみだがこぼれました。私も
つられてないていました。

左手に乗せたごはんから立つゆ気の向こうに、ばあ
ばが見えた気がしました。

「ばあばまたね。じいじのことまかせてね。」
つたえられなかったことが、言えました。